



第32号  
令和2年7月15日  
発行  
熊本市北区高平  
2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者  
中山 義紹

# 浄国寺施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

## 春のお彼岸に続き

### 今回まで、中止と致します

#### 浄国寺夏季施餓鬼法要

供養予定日

日時 令和二年七月三日 (金)

午前十一時

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

残念ですが、今回まで、皆様にお集まり頂く形での法要の開催は取り止めと致します。

#### 法要開催中止

春のお彼岸の法要も行いませんでした。今回はできるかなと思、大分悩みました。有難い事に当山の法要の時、沢山の檀信徒の方がお集まりになります。少ない時で一五〇名、多い時は一八

張り椅子を置いて一度に勤める方法もありますが、この時期は、梅雨も明けていないので、雨の心配もあります。先日、熊本市内の曹洞宗寺院の住職で話し合う機会を設けましたが、やはり、先祖供養に来て感

染したりする可能性がある中止にしようと言う事で熊本市内の曹洞宗寺院の施餓鬼の法要は行わない事になりました。当日は、私(住職)一人で、本堂にて施餓鬼供養の檀信徒回向を行います(前回も書きましたが、これを内献供養と言います)。

檀家の皆様の総回向という形でご先祖様への供養を行います。いつもの法要であれば、参りに来られた方の封筒を使い、「〇〇家先祖代。〇〇家先祖代々」という形で読みも行います。別途に

自分のご先祖様にお供えをして読込みをして貰いたいと思われる方は、前もつてご連絡下さい。尚、初盆のお宅は、例年通り別途に伺う若しくはお寺にお参りに来て頂く形で行います。日程は七月初旬に順路を考え葉書で連絡申し上げます。

#### 先祖供養について考える

これまで、施餓鬼法要の案内状の寺報には、一昨年であればお盆の由来について、昨年は、お盆の供養として行う法要の儀式である「お施餓鬼(施食とも言います)」の由来について書いてきました。

今回は、お盆だけでなく、先祖の供養を務めるとはどういう事なのか？について触れたいと思います。葬儀や法事の時に、話をしている事と重なりませんが、もう一度考えていただければ有り難いと思います。私達は、自分の意志で生まれた訳ではありません。そこで、この世界に命を



いただいて初めて今ここに存在しているわけです。両親(先祖)の存在(因)、沢山の人々のお陰(縁)があつて私がお盆に生きています(果)訳です。この因と縁と果によって、この世界は成り立っているというのがお釈迦様の基本的な世界観です(これを縁起の法則などと言います)。とは言っても、今ここに生きています事が楽しくて仕方がないと毎日過ごしている人間など殆どいません。求めるものが得られない、思い通りにならない、毎日年齢を重ねて老いていく、病気になるし、又なつたらどうしよう不安になる、会いたくない人間と毎日顔を合わせねばならない等々楽しくて仕方がないという思いとは程遠いの



が我々の日常です。しかし、生きていくからこそ、苦しみも感じるし、楽しさもある訳です。だからこそ、今という一瞬をキチンと正しく生きる事が大切です。正しく生きる為に重要な事は生きていく事への感謝の気持ちを持つ事です。その一歩が自分を存在させてくれた先祖へ感謝の気持ちを保持つ事であり、それを形にしたのが先祖供養です。

### 一切衆生悉有仏性

古い經典の涅槃經の一節です。この世界にあるものは全て「仏様」であるという意味です。我々生きていく人間は沢山の煩惱があり、自分が仏様だと言われてもピンときません。しかし、我々全てが尊い仏様であるというのが仏教の出発点です。そして亡くなられた方は、肉体や煩惱から離れて仏様の世界へ涅槃へ移り仏様となられている訳です。だから「成仏」と言います。その仏様に喜んで戴く事を私は供養と考えます。仏様はいつも縁のある人を見守ってくれています。見守ってくれている先祖に「正しく

生きようと努力しています」という姿を感謝の気持ちで込めて見て戴く事が何より供養でしょう。時々、バチがあたるのが嫌だからお経を読んで欲しいという方がいらつしやいますが、慈悲の象徴である仏様はバチはあてません。何か思い通りにならないなら、自分の悪業の報いが自分に応報しているだけです。僧侶は（特に私は）霊能者ではありませんし、お経は霊力をもつた呪文でもありません。お経は、仏様の教えの記録です。一緒に教えを学びましょうと言うのが読経です。仏様の前で、良い香りの香を焚き、（涅槃では良い香りを食べ物にしていると言われます）手を合わせて故人の事に思いを巡らす。同時に今生きている自分の足許に再び思いを巡らす、これが先祖供養の基本だと思いつつもお話しをさせて戴いています。

### いま、心にZEN

お寺の敷居を低くしたい、気軽に寺に行けるような機会を作りたいと思ひ、始めた企画「いま、心にZEN」も今年で一〇年目を迎えます。

した。最初は「お寺でジャズ」と音楽会だけでしたが、色んな見方で禅を捉えて紹介したいと考え、昨年は、薬劑師で曹洞宗僧侶の太瑞（中村）知見老師に「お釈迦様の薬箱」と題してお話しを戴きました。ジャズは、第1回目から毎年出演して戴いているジャズベース界の重鎮、鈴木良雄氏率いる「BASSTALK」の演奏でした。参加者も、年々増え七〇名の方が来られました。今年もやります。一〇月一七日（土）です。お話しをいただく方は、現在交渉中ですが、ジャズは鈴木良雄氏とこちらもジャズピアノの重鎮、山本剛氏のデュオです。お二人はベテランの底力で有名なスタンダードを集めた新譜を四月に出されたばかりで、演奏が楽しみです。



### 木曜坐禅会で感じた事

新型コロナウイルスによる非常事態宣言が五月一杯で解除になりました。二波、三波が起きない事を願うばかりです。やっとうちの幼稚園も

日常に戻りました。毎週木曜の坐禅会は、間を空けて坐り続けてきましたが、五月末から、新人も含め参加者が増えてきました。現在、講義部分で、「佛遺教経」の八大人覺と言う經典を解説しています。修行者として務めるべき八つの重要な事をお釈迦様が遺言として遺したとされる經典です。「少欲」「知足」の次の3番目を「遠離」と言います。人と群れる事を避けて一人静かに教えを噛みしめなさいと言う意味です。ある意味「ステイホーム」です。非常事態宣言はどこにも行けない、人と会って遊べない、これはストレスの極みだと言う事が言われていました。坐禅をしているのは基本的に一人です。年齢もあるのかも知れませんが、近頃私は、一人でいる方がストレスが少くないような気がします。パランスの問題



かも知れませんが、たまには一人で坐禅するのも良いもんですよ。

### 染髪は染髪

コロナ禍で、自営業を始め、社会・経済生活も停滞し、多くの人が辛い目に合っている。音楽家も同様で、私の好きなジャズは生が醍醐味であり、演奏が出来ずに生活にも困っている人も沢山居る。一方家庭では、親も大変だが、子ども達も外に出る事が出来ずに、その成長に影響が出るのではないかと心配だ。特に小さい子どもは知識や技術の習得でなく、身体を通じた経験が成長の糧。機械に遊んで貰う事は避けたいものだ。今回の騒動の中でも感じるのは政治家や官僚の動きの問題点（幼児教育の部分では年中怒っているが）。対応策で使うのは我々が納めた血税の筈。決して政治家が費用負担しているのでも、役所が金策しているのでもない。社会の二極化がすすむ中で、政策決定をする人々が皮膚感覚として何を感じているのか甚だ疑問だ。せめて、これからこの国生きることも達のために考えて貰いたいと切に祈るだけだ。

### 定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて  
一・(約四十分) 坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約二十分) 会費・会則一切なし、初めての方はご連絡下さい